

金融経済ナビ まなぼう！金融経済 株式の講座 株価はなぜ動く 自己診断シート/確認テスト〈解説・指導編〉

【自己診断シート】

株価の変動がどのような事に関わりをもっているか。学習の前段階として意識付けしておくことが目的です。「世の中のさまざまな出来事が企業の業績につながり、株価にも反映される」ということを、設問や選択肢から生徒が感じ取ってくれることを狙います。

Aの解説：

株価は、需要と供給のバランスで変化することをまず知るための設問です。
売りたい人が多ければ株価は下がり、買いたい人が多ければ株価は上がっていきます。

Bの解説：

株価の最も大きな変動要因で「会社の業績」について確認させる設問です。

Cの解説：

株式を公開している会社の株価は、毎日公表されていることを確認する設問です。

Dの解説：

コンテンツ内では「TOPIX（東証株価指数）」や「日経平均株価」に触れるため、事前に意識してもらうための設問です。

設問2の解答と解説：

全て○

より具体的な要因（語句）を出し、「選択肢がどのような種類のものか」「どのように影響を与えるか」を生徒たちが思考・推理した上で授業へ望むことを狙います。

【確認テスト】

[解答] 1 : B 2 : C 3 : A

[解説]

1 : 株価は買い手と売り手の間で決まります。買いたい人が多ければ株価は上がり、売りたい人が多ければ株価は下がります。

2 : 金利が下がるということは利子が少なくなるため、会社が金融機関から資金を借りやすくなります。多くの資金があれば事業拡大がしやすくなることで、業績向上も期待できることとなります。

3 : 輸出関連企業と輸入関連企業で、逆の傾向が見られます。例えば円高の場合、輸入企業は、海外から原料や商品をより安く購入できるようになるため、利益の幅が膨らむこととなります。一方で、輸出業者は海外で売った商品の代金が円換算で減るため、売上が減ってしまい、業績も下降しやすくなります。